

ふるさと ねやがわ

第84回

「小さくても勝てるチームを」 古巣で1部昇格目指す

ラグビーアシstantコーチ

ひらせたけし
平瀬 健志さん(41歳)

市立第三中学校で始めたラグビー。高校、大学では関西の強豪校から全国を目指しました。昨年、国内最高峰リーグワンのディビジョン2(2部)に所属する古巣のレッドハリケーンズ大阪に指導者として復帰。「目標は1部昇格」と意気込みます。

小学生のときはソフトボールチークの投手で活躍。第三中学校に野球部がなく、友達に誘われて始めたのがラグビーでした。仮入部中のタックル練習で鎖骨を骨折。両親に猛反対されましたが、3年間、櫛(だ)円球を追いかきました。

三中から強豪高校へ 全国屈かず初の挫折味わう

1つ上の先輩がいた東海大仰星高校に進学。前年度に全国優勝した強豪でしたが、「負けず嫌いで気後れす

ることはあります
せんでした」。

ポジションは
速さとパワーが
求められる背番

号12のセンター
で、低く鋭いタックルが持ち味。

身長は170cm
とそれほど大き

くなく、ジムに
通い1日5回の
食事で体作りに
励みました。し

かし、高校日本一
リーグワンの前身のトップリーグでプレーする平瀬さん

「関東には負けられない」 大体大で大学選手権4強

を掲げた3年生のときは大阪府地区予選は、決勝で敗退。全国に屈かず「初めての挫折を味わいました」。



レッドハリケーンズ大阪のグラウンドで

大阪体育大学でも「日本一」のチームを目指しました。主将を任せられた4年生のとき、元日本代表の坂田好弘監督にチーム強化のためニュージーランド遠征を直訴。現地チームに4戦全勝で自信をつけて関西大学リーグで優勝すると、『走るラグビー』を信条に全国大学選手権で17年ぶりのベスト4を果たしました。

同大会では高校の同級生が主将の京都産業大学も4強入り。関西ではライバル同士でしたが、「関東のチームには負けられない」と、1回戦からお互いに花道を作つて送り出しました。

『激励の花道』は国立競技場での準決勝まで続き、ともに決勝進出は逃しました。

私とふるさと

市立北小学校に在学していたときに入っていたソフトボールチームの

コーチを父親が務めていて、よく自宅近くの公園でピッチングの練習をしていました。第三中学校ラグビー部OBの子どもたちも頑張っていてうれしい。レッドハリケーンズ大阪にはまだ使えるボールがあり、機会があれば後輩たちにプレゼントしたいです。

大学を卒業した年にスポーツで市の「特別功績表彰」を受けました。そのときにももらった盾は今も実家にあります。

しましたが、「一緒に国立の舞台に立ててうれしかった」と振り返ります。卒業後、「生まれ育った地元のチームがいい」とレッドハリケーンズ大阪の前身となるNTTドコモ関西へ。主将を2シーズン務め、俊足を生かしてワイングで10年間プレーし33歳で現役を退きました。

親会社の営業職を経てマネジャーでラグビーの現場に復帰。千葉のチームで単身生活も経験し、昨年7月、レッドハリケーンズ大阪にコーチとして迎えられました。「指導者として戻ることができてうれしい。リーグワーンは体が大きい外国人選手が多い。経験を生かし、小さくても勝てる戦術やマインドを伝えたい」。その先にあるのは1部昇格と夢の日本一です。

地元の社会人チームでプレー 指導者として古巣に復帰



平瀬 健志さん(41歳)